

WHO-FIC ネットワーク年次会議（2018年韓国）の概要

○ WHO-FIC ネットワーク年次会議（2018年韓国）

主催 : WHO 及び韓国社会保障情報院、韓国保健福祉部
 開催期間 : 平成 30（2018）年 11 月 19 日（月）～24 日（土）
 会場 : インペリアルパレスホテル（ソウル）

参加者 : WHO、各 WHO 国際統計分類協力センター、各国政府厚生・統計関係部局、NGO、オブザーバー等

【主な議論】

1. 全体

- ・ WHO では、引き続き持続可能な開発目標（SDG）とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）に取り組んでおり、国の保健システムとしてプライマリ・ヘルスケアの重要性を謳ったアルマ・アタ宣言（1978年）から 40 年を迎え、より質の高い健康医療情報の整備と一層の活用について期待が述べられた。
- ・ ICD に関しては、2018 年 6 月 implementation に向けた最終案について公表 (<https://icd.who.int/>)。2019 年 5 月世界保健総会に提出予定。
- ・ ICF に関しては、ICD-11 に functioning の章が作成されたことのほか、ICF2017（オンライン版）の完成、ICF の Education platform、e-learning tool 等について共有された。
- ・ ICHI (International Classification of Health Interventions) は 2007 年より開発が始まり、2018 年ベータ-2 版を公表 (<https://mitel.dimi.uniud.it/ichi/>)。今後、電子的な教育ツール (ICHI-FiT) を用いたフィールドテストを実施予定。
- ・ WHO-FIC network においては、2017 年 URC（改正・改訂委員会）が終了し、CSAC が設立された。また、新たに TMRG (Traditional Medicine Reference Group; 伝統医学グループ) が設立された。

委員会・グループ名	共同議長
カウンスル Council	Donna Pickett（米） Lynn Bracewell（英）
教育普及委員会 EIC : Education and Implementation Committee	Sharon Baker（カナダ） Vera Dimitropoulos（豪）
国際分類ファミリー拡張委員会 FDC : Family Development Committee	Coen van Gool（南ア） Andrea Martinuzzi（イタリア）
情報科学用語委員会 ITC : Informatics and Terminology Committee	Cassandra Linton（カナダ） 中谷純（日本：東北大学）
分類・統計諮問委員会 CSAC: Classification and Statistics Advisory Committee	Jenny Hargreaves（豪） Lucilla Fattura（イタリア）

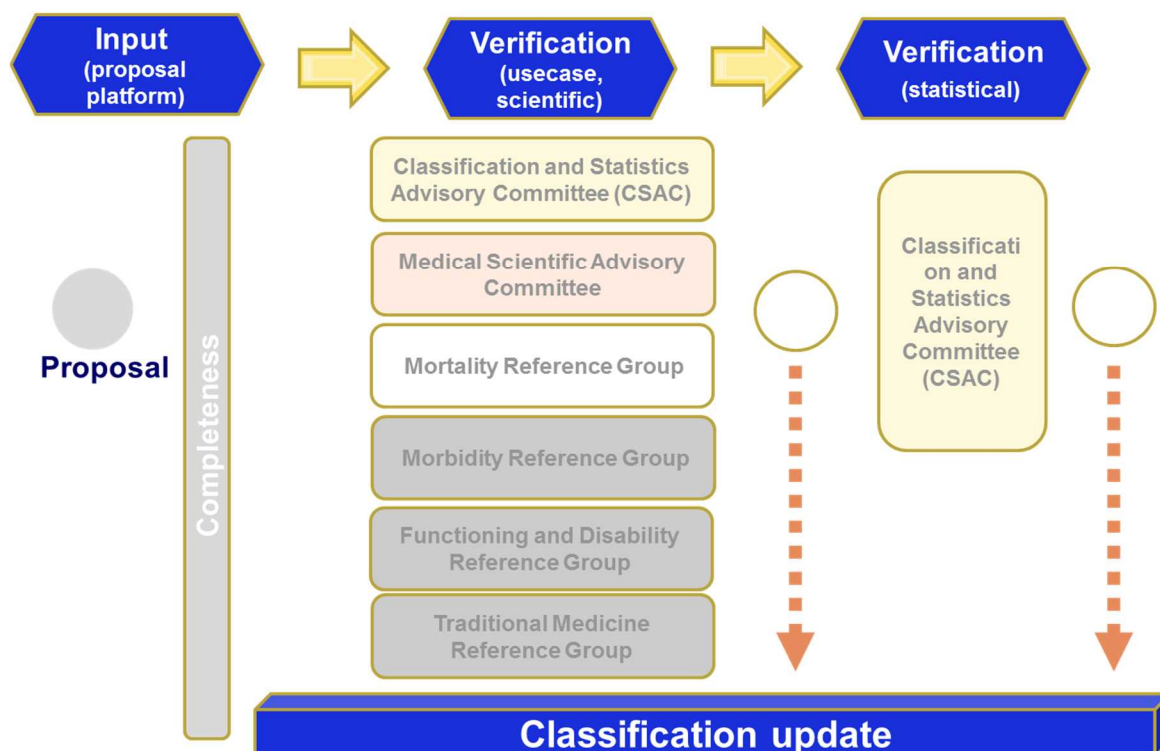
医学・科学諮問委委員会 MSAC : Medical and Scientific Advisory Committee	Chris Chute (米)
死因分類グループ MRG : Mortality Reference Group	Robert Anderson (米) 中山佳保里 (日本 : 厚生労働省)
疾病分類グループ MbRG : Morbidity Reference Group	Olafr Steinum (スウェーデン) Bill Ghali (カナダ)
生活機能分類グループ FDRG : Functioning and Disability Reference Group	Haejung Lee (韓国) Matilde Leonardi (イタリア)
伝統医学グループ TMRG : Traditional Medicine Reference Group	渡辺賢治 (日本 : 慶應義塾大学) Danbo Dou (中)

2. 各委員会等における主な議論 (ICF 関連)

(1) URC (分類改正改訂委員会) (2018 年 CSAC (分類・統計諮問委員会) に改組)

- ・ 1999 年より活動してきた URC は、2018 年より CSAC として活動することになった。URC と同様に ICD, ICF に対するプロポーザルを受理し、レビュープロセスを経て CSAC がプロポーザルの可否を決定することにより、ICD、ICF の構造および内容について決定する役割を有する。
- ・ CSAC メンバーは各協力センター長、MSAC, MRG, MbRG の議長が構成する。
- ・ 2018 年 ICF にかかるプロポーザル、投票結果は別紙 1 参照。

(出典) WHO 資料



(2) FDRG (生活機能分類グループ)

- ・ ICD-11 に V 章として ICF の一部が盛り込まれたことに加え、ICF Practical Manual 案の更新、ICF2020 年改訂版に向けた作業工程 (ICF-CY 関連項目の検証を含む)、WHO-DAS children の開発等 について説明・議論が行われた。
- ・ ICF e-learning tool (<https://www.icf-elearning.com/>)、ICF Education platform、(<http://icfeducation.org/>) について情報共有がなされた。
- ・ ICF にかかる国内の取り組みについて、日本、中国、韓国、タイから報告がなされ、意見交換を行った。

(3) EIC (教育普及委員会)

- ・ WHO-FIC 実施状況データベース (Implementation database) について、例年の更新の加えてデータ確認や内容の改良について検討を行った。
- ・ ICD-11 に関する活動を最優先に行うことを確認し、他の委員会、リファレンスグループとの協働を図りながら、フィールドトライアルの分析や課題の整理、教材開発等について検討を行った。
- ・ ICF e-learning tool の開発を進め、各国語への翻訳作業の状況について共有した。

3. その他

- ・ WHO による審査の上、日本から 9 題 (ICF 関連 3 題) が会場に掲載された。(別紙 2～4 参照)

(ICF 関連)

- ・ 「The Promotion of corporation among pediatric rehabilitation experts in Japan -using Ability for Basic Physical Activity Scale for Children (ABPS-C)」 玉井 智、橋本 圭司、山田 深、森 桂、阿部 幸喜、及川 恵美子、高橋 恵介
- ・ 「The applicability of the World Health Organization Disability Assessment Schedule (WHO-DAS 2.0) in Japan」 大冢賀 政昭
- ・ 「Structure and roles of V-chapter in ICD-11: A comparison with ICF and its application as effective international statistics」 小松 雅代、高井 優奈、城島 哲子、今村 知明、小川 俊夫、森 桂、及川 恵美子

4. 今後の会議日程

- ・ 次回 WHO-FIC 年次会議 カナダ予定 (2019 年 10 月)